

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

この科目は、保育実習Ⅳ(施設)のための科目である。保育実習Ⅱでの経験を踏まえて、実習のための基礎知識を講義する。事前指導では、施設における実習の目的や内容、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに、その概要を指導する。施設の種別は、幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて、施設の種別ごとにクラスに分けて授業を行う。

障害児等の支援を必要とする児童の相談・指導を行っている筑波大学心理・障害教育相談室及び筑西児童相談所における実務経験に基づいて、各自の保育実習Ⅱの経験についてディスカッションを行い、施設利用児者や施設の社会的意義について指導する。

事後指導では、施設実習での学びを振り返り、その後の課題を自覚できるように指導する。

### 授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保育実習Ⅱの課題と反省
第 3 回	児童福祉法・障害者総合支援法と施設
第 4 回	養護系施設について
第 5 回	障害系施設について
第 6 回	児童厚生施設について
第 7 回	養護系施設における施設利用児や施設の社会的意義について
第 8 回	障害系施設における施設利用児者や施設の社会的意義について
第 9 回	実習日誌の書き方
第 10 回	実習目標と自己評価
第 11 回	個別支援計画の作成①（個別支援計画の解説）
第 12 回	個別支援計画の作成②（事例を基に個別支援計画を作成）
第 13 回	実習直前指導
第 14 回	施設実習の反省と評価
第 15 回	施設実習のまとめと今後の課題
第 16 回	総まとめ

### 到達目標

実習施設について、経過や成り立ちなどが理解できるようになる。

実習先施設の利用者について理解できるようになる。実習日誌を円滑に記入できるようになる。

### 履修上の注意

欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず連絡をすること。連絡がない場合、配布物など受け取れないことがある。課題は必ず提出すること。

外部講師を招へいして授業を行う場合がある。

### 予習・復習

予習として、福祉施設の動向について、日常的に関心を持つこと。復習として授業プリントをよく整理すること。付け焼刃では実力はつかない。

### 評価方法

授業態度 10%、課題の提出状況 30%と内容 60% を基準に総合的に判断して評価する。

### テキスト

- 『より深く理解できる施設実習—施設種別の計画と記録の書き方』  
著者名：藤 京子 (著), 中島 健一郎 (著), 増南 太志 (著), 松本 峰雄 (監修)  
出版社名：萌文書林・出版年 (ISBN)：2020 年に改訂版出版予定
- 『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』創成社